

明日の
しあわせを
化学する



個人投資家様向け会社説明会

広報・IR室長 永益 信之
2026年2月15日

東証プライム

4042

身の回りにあふれる東ソーの製品



LED材料



半導体材料



糖尿病の診断装置



省エネサッシの原料



靴底のクッション材



紙パックのコーティング材



住宅断熱材の原料



建築用セメント

化学技術で一生のしあわせを実現し、持続可能な社会に貢献する、東ソーの想いをつづったブランディングムービーです。

この想いをどのように実現していくか、説明会を通して知っていただければ幸いです。

安定かつ成長性のある収益基盤

キーワードは「チェーン」

- 当社独自のプロダクト「チェーン」から社会に不可欠な基礎化学品、多数の高付加価値品を産出



ユニークな事業ポートフォリオを構築



安定かつ成長性のある収益基盤

(高配当の源泉)

高配当

年間 **100**円/株

配当利回り **4.0%**

(プライム市場平均2.3%)

長期保有に適した投資先

東ソーの製品：基礎化学品から派生し、半導体やライフサイエンス分野まで展開

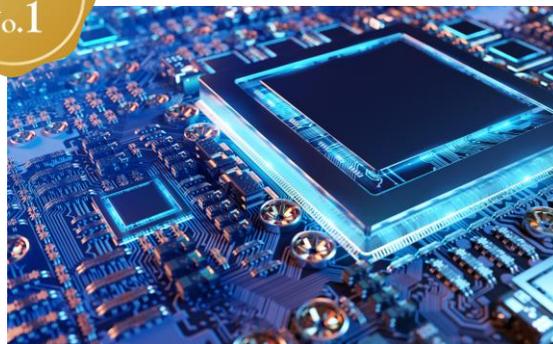
■ 技術基盤、競争力を活かしたNo.1・Only1 製品も多数

★★★
国内唯一の
生産者
Only 1



エチレンアミン
用途例：船底塗料硬化剤

国内生産量
No.1



臭素
用途例：電子基板難燃剤



合成ゴム (CR・CSM)
用途例：自動車部品

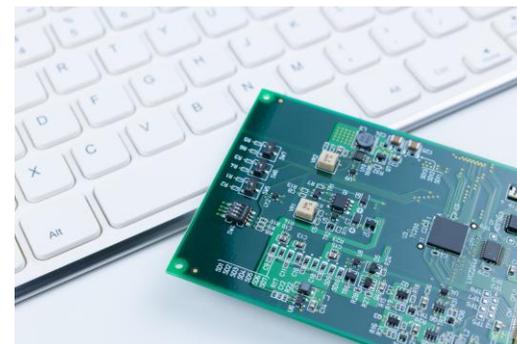
世界シェア
No.1



ハイシリカゼオライト
用途例：自動車排ガス浄化触媒



ジルコニア
用途例：歯科材料



石英ガラス・ターゲット材
用途例：半導体製造装置

国内シェア
No.1

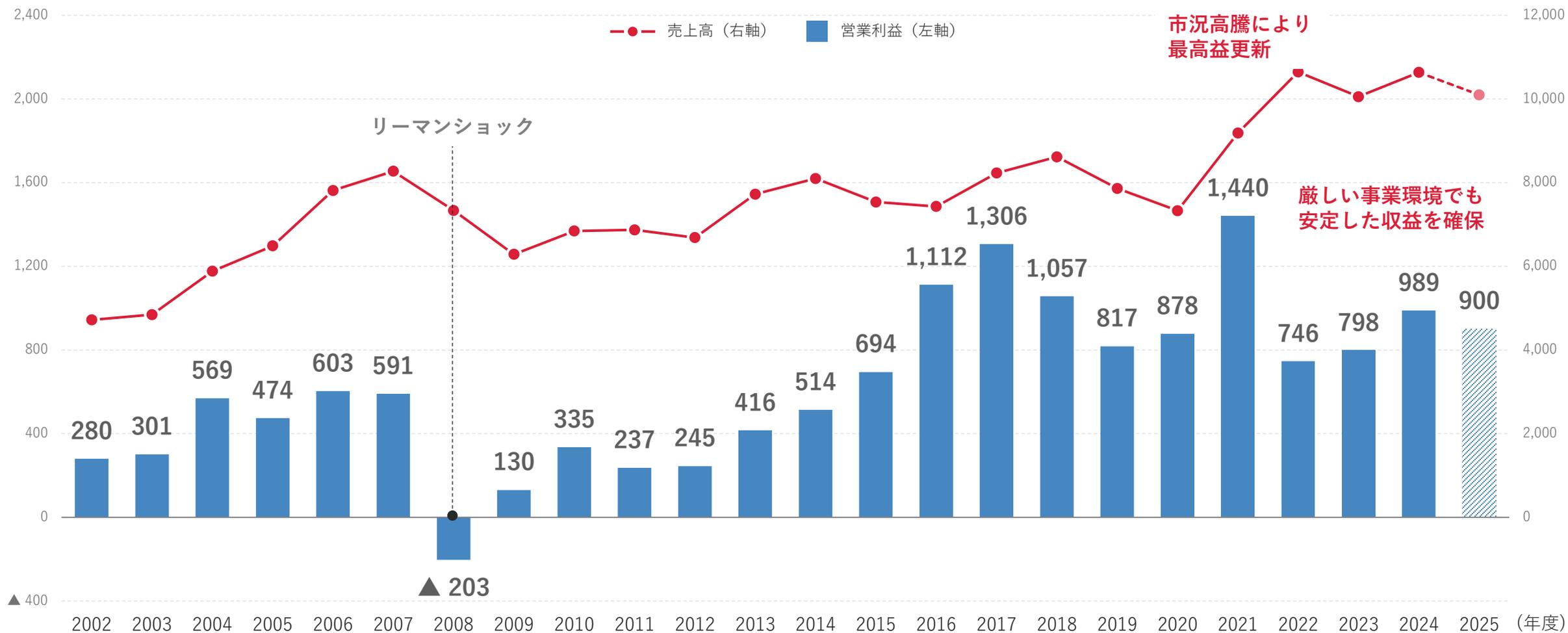


**グリコヘモグロビン分析計
(糖尿病診断用HbA1c測定)**

業績推移：リーマンショック後は売上・利益成長を加速

■ 年度ごとの変動はあるものの、売上高・営業利益は拡大傾向

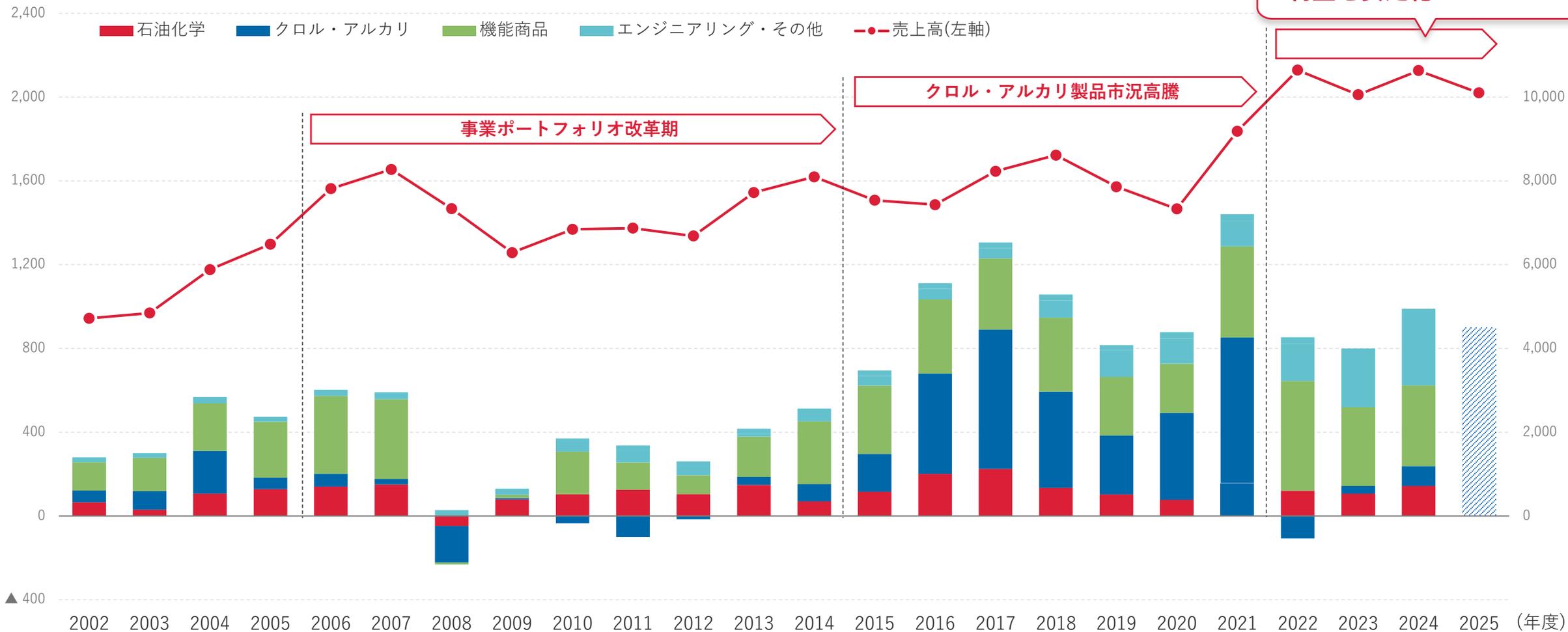
売上高・営業利益推移 (単位：億円) ※2025年度は計画値



業績推移：セグメント別営業利益

■ 近年は、機能商品やエンジニアリングの成長が利益成長を実現

セグメント別営業利益推移（単位：億円）※2025年度は計画値



市況低迷も、機能商品・エンジニアリングが成長し利益を安定化

クロル・アルカリ製品市況高騰

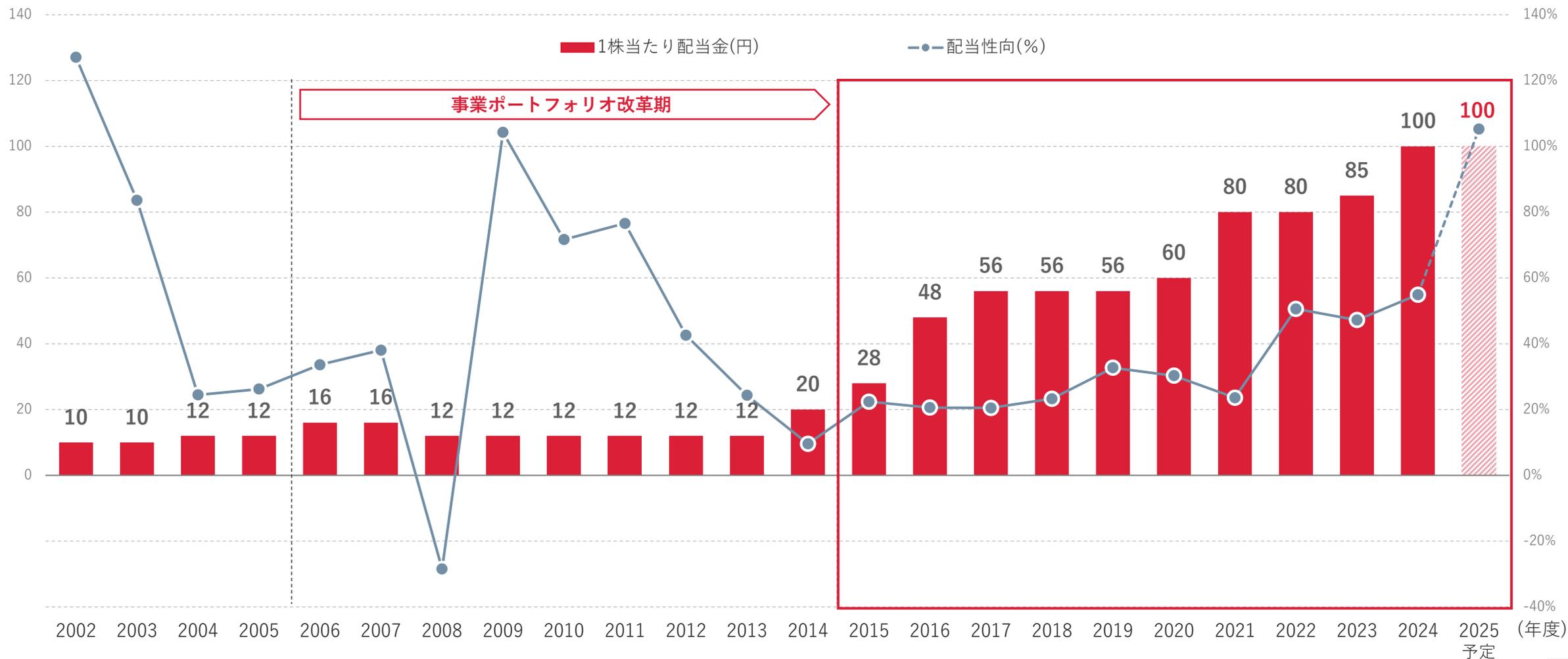
事業ポートフォリオ改革期

▲400

東ソーの特長：高配当

■ 事業ポートフォリオ改革後は増配を実現、以降実質累進配当を継続中

予想配当利回り **4.0%**
(2026年1月末日終値)



※2017年度、普通株式2株を1株に株式併合。2016年度以前の配当は併合後の基準に調整済みの金額を記載。

1. 東ソーとは
2. 東ソーの特徴・強み
3. 中長期経営戦略
4. 当社株式の魅力

東ソーとは

ユニークなポートフォリオで成長を実現

東ソーとは 設立90年を迎えた日本有数の化学メーカー



代表取締役社長
社長執行役員

栗田 守(くわだ まもる)

設立年月日 1935年2月11日

本社所在地 東京都中央区八重洲2-2-1

登記上本店 山口県周南市開成町4560

資本金 552億円 (2025年3月末現在)



設立

1935年



従業員数

14,944人*1



売上高

1兆634億円*2



営業利益

989億円*2



研究開発費

221億円*2



特許出願件数

589件*3



国内グループ会社

57社



海外グループ会社

48社

*1: 従業員数: 2025年9月末時点 *2: 売上高、営業利益、研究開発費: 2024年度実績 *3: 特許出願件数: 2023年度



所定時間外労働時間

16.0時間/月

原則20時以降の勤務を禁止し、時間意識を醸成することで、生産性の向上を目指す



年休取得率

85.6%

取得しやすい環境づくりや取得推進活動により取得率は上昇傾向。



離職率

1.1%

一人一人に合った学びを得られる研修制度や、ワークライフバランス向上のための制度を整備



入社三年後の定着率

96.8%

採用ミスマッチを減らすための積極的な情報開示や、働きやすい環境づくりを実施



男性の出産育児休暇取得率

96.6%

子どもが生まれた後に継続して6日の有給休暇を取得可能（東ソー独自制度）



男性の育児休業取得率

74.9%

法定の期間を超えて、子どもが満2歳に達するまで取得可能。一定期間は賃金支給

■ 「安全基盤の強化」と「安全文化の醸成」を基本とした多様な安全活動を継続し展開

DXを活用した安全管理

- プラントの安全確保や安定操業にDXを活用
- 情報共有や作業の効率化、異常予兆検知に貢献



運転引継ぎ日誌を電子化



現場通信用タブレット

安全への取り組みを重視する社風

- 社長が製造現場に出向き、社員と対話（過去13年で延べ7,400人以上）
- 安全に対する考え方を共有
- 従業員モチベーションアップにも貢献



南陽事業所訪問



四日市事業所訪問

教育の充実

- シミュレーターを活用した危険体感実習を実施
- 教育にもDXを活用（VRによる危険体感実習、運転支援システムを用いた運転技術の伝承等）



被液危険体験・安全装置作動体験装置



VR危険体感教育

クロル・アルカリ事業

化学品 ウレタン セメント

事業規模は国内最大級

窓サッシ用
塩化ビニル樹脂

自動車内装材用
ウレタン原料MDI

石油化学事業

オレフィン ポリマー

他社比で高稼働を維持し、安定した利益を計上

食品パッケージ用
ポリエチレン

合成ゴム
(CR・CSM)

機能商品事業

バイオサイエンス 高機能材料 有機化成品

成長市場のニッチ領域で利益拡大を目指す

診断装置・試薬

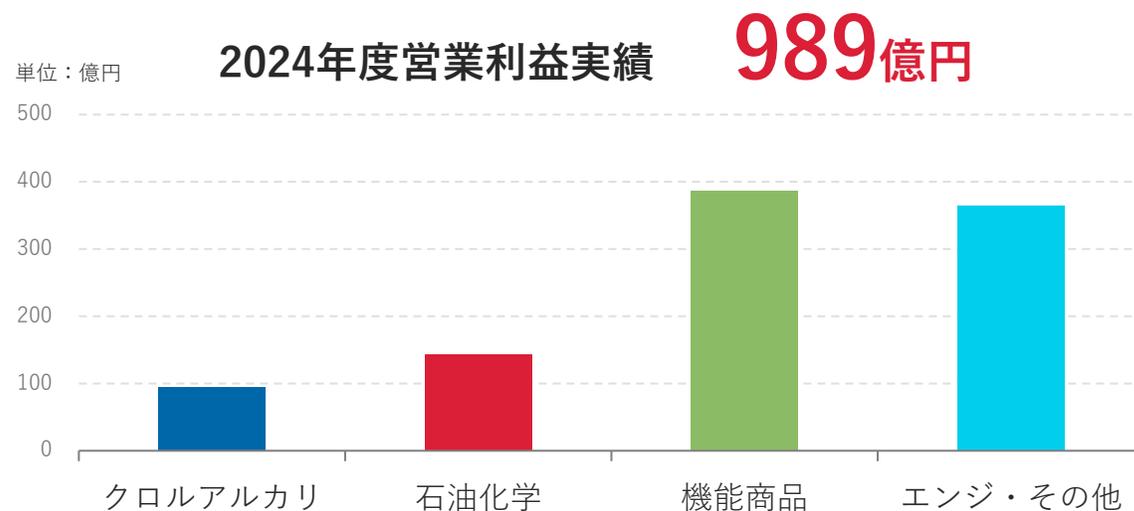
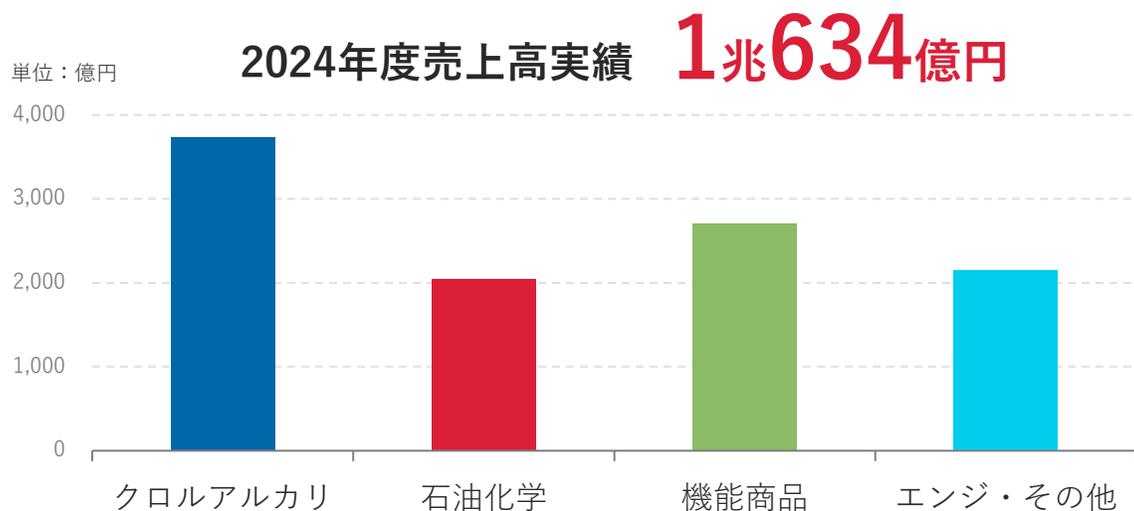
半導体製造装置用
石英ガラス、ターゲット材

エンジニアリング・その他

水処理事業 プラント建設 運輸など

半導体向け水処理事業が成長

水処理プラントエンジニアリング事業
(オルガノ株式会社にて事業展開)



東ソーとは 東ソーのあゆみ



技術の延伸、M&A、さらに積極的な設備投資により、ユニークな事業ポートフォリオを構築



1935年
東洋曹達工業設立
ソーダ工業を祖業に
山口県にて事業開始



TOSOH

1987年10月
現社名の「東ソー株式会社」へ改称



1975年 鐵興社と合併
1990年 新大協和石油化学と合併
2014年 日本ポリウレタン工業と合併

1935 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2020 2024 (年度)

注目製品の歴史

- 1942 ●臭素
- 1967 ●エチレンアミン
- 1971 ●合成ゴム (CR)
●分析機器
- 1975 ●石英ガラス
●ターゲット材
●電解二酸化マンガン
- 1976 ●エチレンアミン (オランダ)
- 1979 ●工業用分離精製剤
- 1983 ●診断機器
●ジルコニア粉末
- 1986 ●ハイシリカゼオライト
●PPS樹脂
- 1997 ●ターゲット材(韓国)
- 2001 ●水処理エンジニアリング (オルガノを連結子会社化)
- 2004 ●遺伝子検査
- 2009 ●ジルコニア粉末、ハイシリカゼオライト (四日市)
- 2015 ●ハイシリカゼオライト (マレーシア)
●臨床検査機器・試薬 (インド)
- 2019 ●石英ガラス(韓国)
- 2020 ●石英ガラス(台湾)
●シリカ(韓国)
- 2024 ●石英ガラス(米国)
- 2025 ●ターゲット材(米国)
- 2026 ●工業用分離精製剤(南陽)
●HDI誘導品(南陽)
- 2027 ●工業用分離精製剤(四日市)

●は既存技術の延伸により創出された事業
●はM&Aに伴う新規事業
●は能力増強を行った事業

南陽事業所（山口県）



当社の主力製品開発・製造・販売の起点

- 化学メーカーの単一事業所として国内最大級（東京ドーム約65個分の広さ）
- 港湾設備・自家発電設備を完備（自家発電率100%）
- アジアへの輸出拠点（東京と上海がほぼ同等距離）
- 巨大インフラが、基礎化学品・高付加価値品の競争力の源泉に

四日市事業所（三重県）

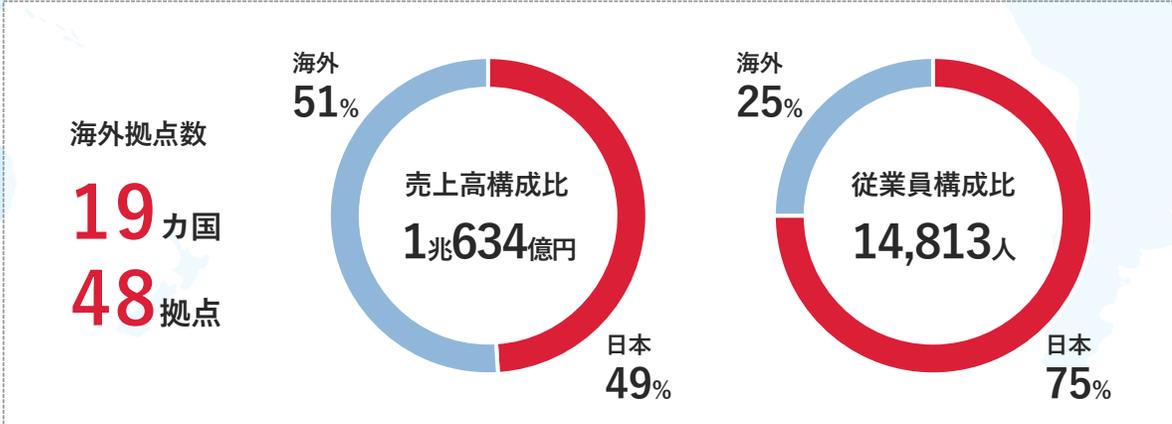
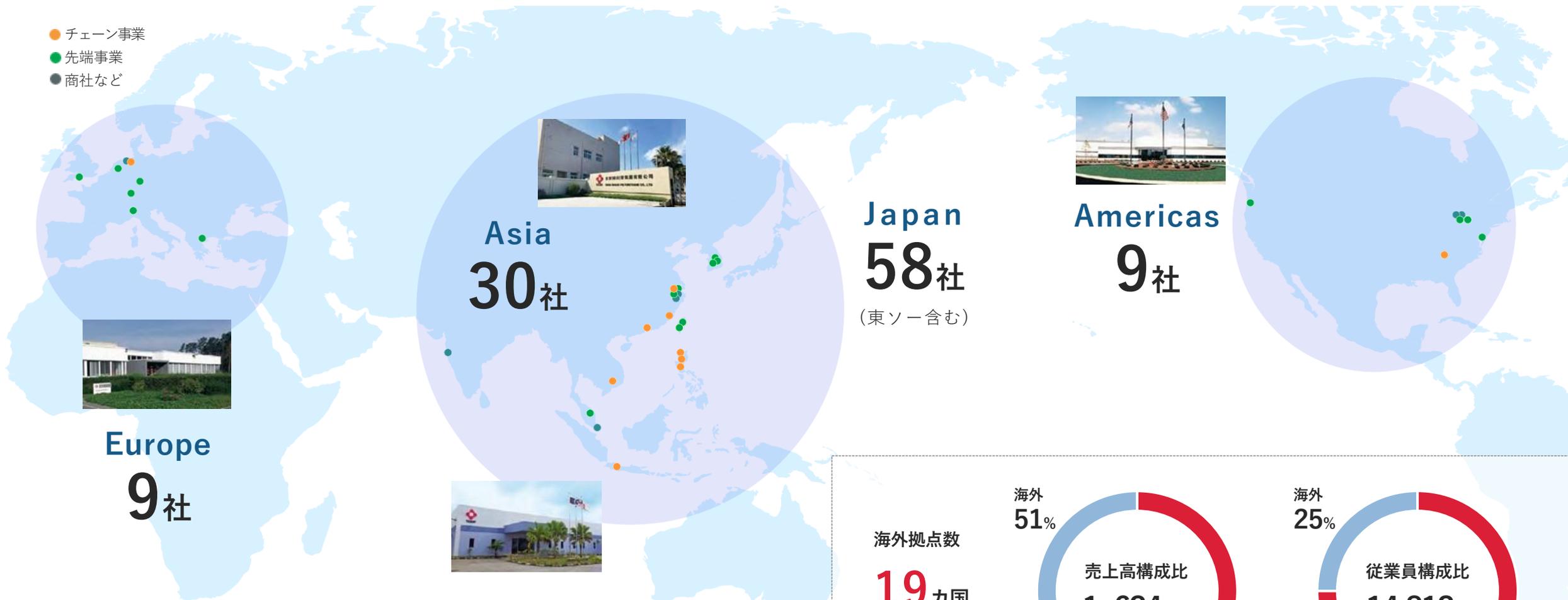


石油化学事業の中核かつ機能商品も製造

- 中京地区で唯一エチレンセンターを保有
- 基礎原料やユーティリティを自社プラントやコンビナート各社へ供給
→高稼働を維持し、安定した収益を確保
- 需要伸長により、事業継続計画を考慮し機能商品製造拠点を増設
現在バイオサイエンス製品の設備投資を実行中

グローバルに事業を展開：海外売上高構成比は約50%

- チェーン事業
- 先端事業
- 商社など

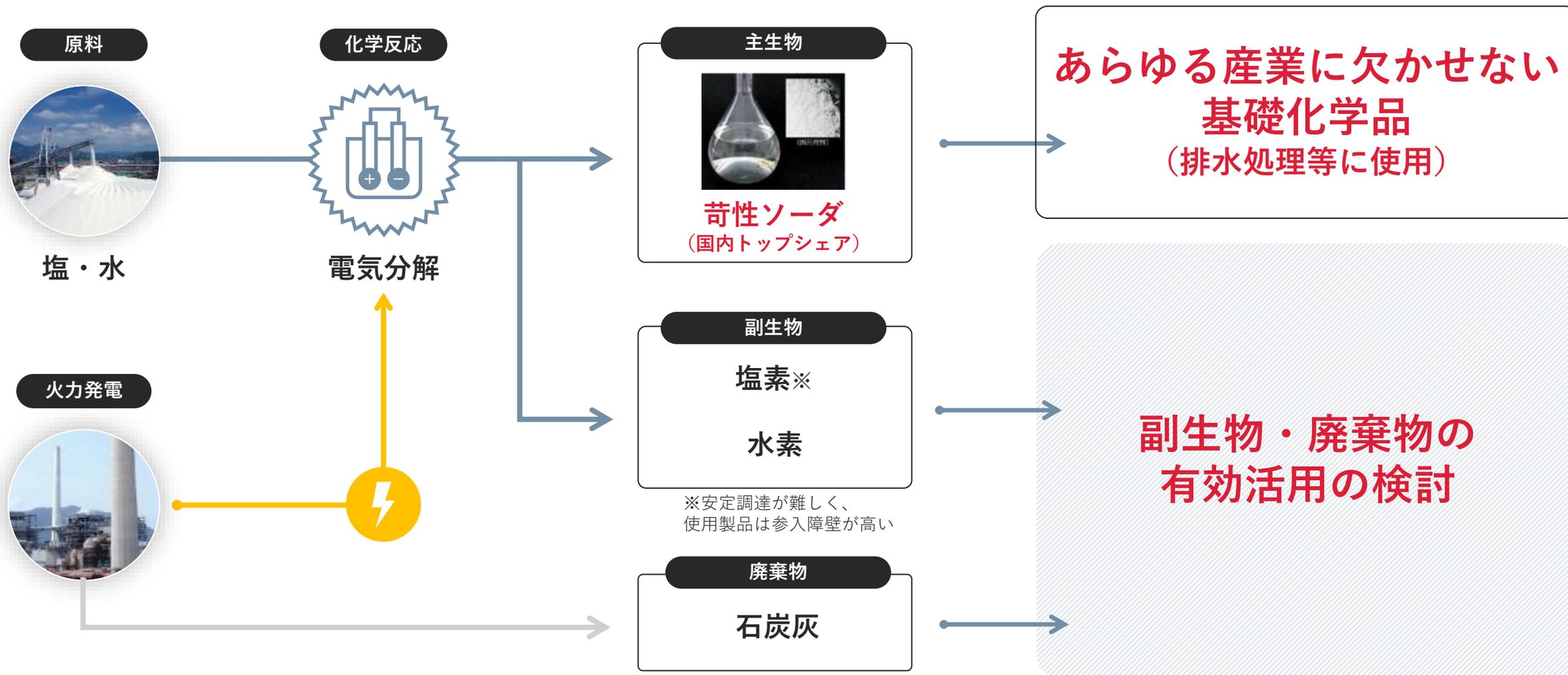


東ソーの特徴・強み

副生物・廃棄物を効率的に活用する「チェーン事業」
技術の延伸により発展する「先端事業」

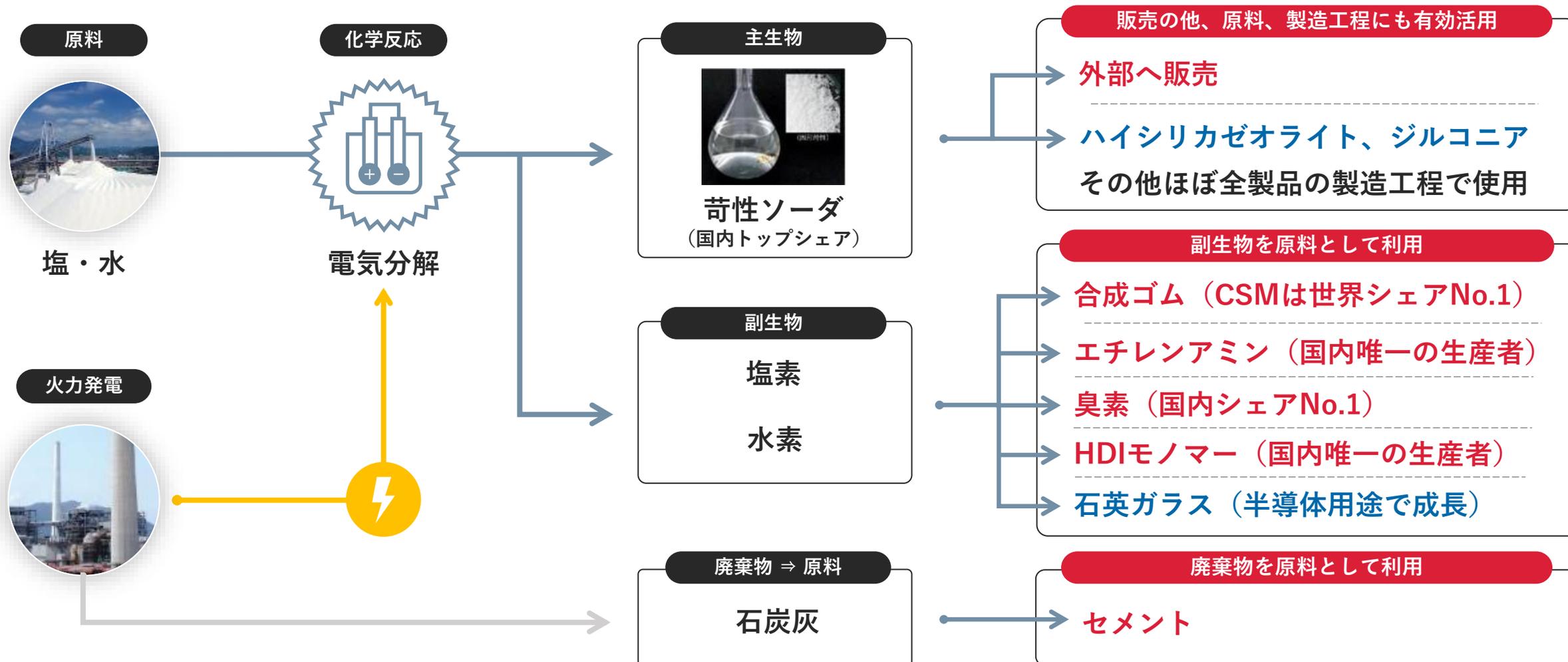
化学反応で生じた資源を無駄なく有効活用する事業展開

「主生物」だけでなく「副生物」や「廃棄物」も有効活用



当社事業の根幹：高効率なプロダクトチェーン

「主生物」「副生物」を無駄なく有効活用し、多様な製品を製造 = 「チェーン事業」



「チェーン事業」：当社独自のプロダクト「チェーン」から多彩な化学素材を製造

特徴

- プロダクト「チェーン」で発生する原燃料や副生物を無駄なく活用、高効率に化学素材を創出

基礎素材（川上製品）

オレフィン ポリマー 化学品 ウレタン セメント



様々な産業で基礎原料として使用

製品例

- エチレン
- ポリエチレン
- 苛性ソーダ
- 塩化ビニル
- ウレタン原料（MDI）
- セメント



強み

- 安定調達が難しく参入障壁が高い塩素を活用、ニッチで利益率の高い製品を展開
- 社会に不可欠な基礎化学品で底堅い需要

付加価値素材（川下製品）

機能性ポリマー 機能性ウレタン 有機化成品



原料の塩素に機能性を付加した高収益製品

製品例

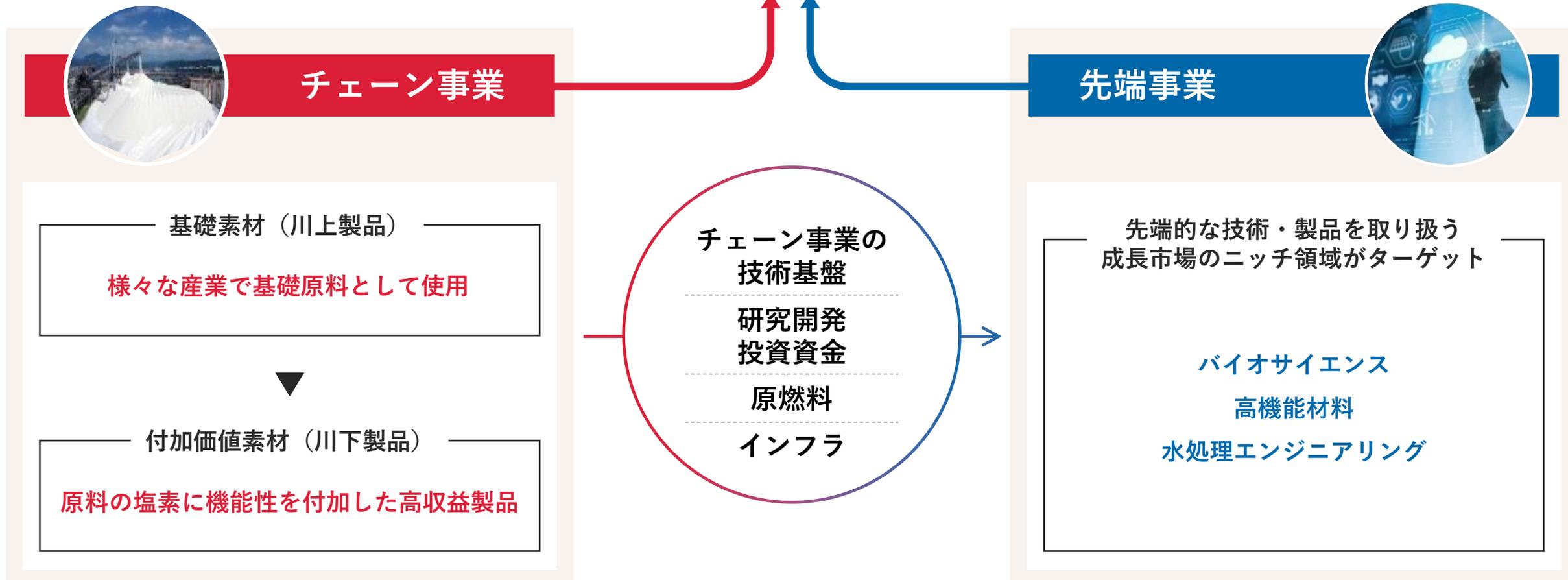
- 合成ゴム（CR・CSM）
- ウレタン原料（HDI）
- エチレンアミン
- 臭素



収益性を高める事業ポートフォリオ：チェーン事業をベースに先端事業を拡大

■ チェーン事業で創出されるキャッシュを経営基盤とし、先端事業で利益を拡大

全社利益・企業価値の向上



「先端事業」：当社のチェーン事業の基盤を活かした発展事業

特徴

- 先端的な技術・製品
- 半導体・医薬など成長市場が対象

強み

- 認証取得が難しい業界で多くの認定製品を持ち強固なポジションを確立
- チェーン事業の技術基盤・インフラ・原料の有効活用が可能

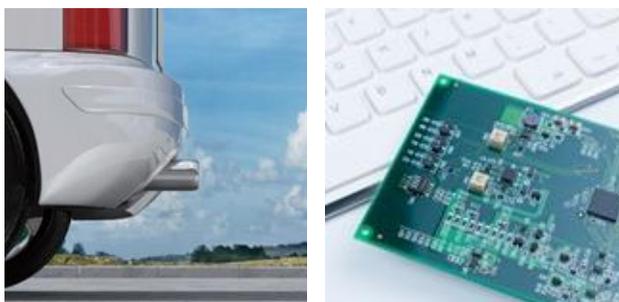
バイオサイエンス



製品例

- バイオ医薬品製造用分離精製剤
- 免疫診断機器・試薬
- 遺伝子診断機器・試薬

高機能材料



製品例

- ハイシリカゼオライト
- ジルコニア
- 石英ガラス・ターゲット材

水処理エンジニアリング



製品例

- 水処理機器・プラント

技術の有効活用：技術の応用により次々に製品と用途を拡大



技術の応用から生まれた多様な製品群

区分	セグメント	サブセグメント	主な製品	用途例		
先端事業	機能商品	バイオサイエンス	分離精製剤(TOYOPEARL) 分子量測定機器・カラム(GPC) 免疫診断機器・試薬(AIA) 遺伝子検査機器・試薬(TRC)	バイオ医薬品研究開発・製造用 高分子の分子量・分子量分布の測定 ホルモン、心疾患、腫瘍(がん)などの検査 新型コロナウイルス等の検査		
		高機能材料	ハイシリカゼオライト ジルコニア 石英ガラス・ターゲット材 二酸化マンガン	自動車排ガス浄化触媒 歯科材料 半導体製造装置用素材、半導体の配線材料等 アルカリ乾電池/リチウムイオン二次電池の正極材用原料		
	エンジニアリング	オルガノ株式会社	水処理機器・プラント	排水浄化、半導体向け超純水製造		
チェーン事業	基礎素材	石油化学	オレフィン	エチレン・プロピレン キュメン BTX(ベンゼン、トルエン、キシレン)	ポリエチレン、塩ビモノマーなどの原料 家電部品(ポリカーボネート樹脂原料) 溶剤など	
			ポリマー(ポリエチレン)	EVA(エチレン・酢酸ビニル共重合体) 高密度ポリエチレン 低密度ポリエチレン	接着剤、太陽電池封止材 高純度薬液容器 包装用フィルム、ラミネート	
			クロルアルカリ	化学品	苛性ソーダ 塩化ビニル 重曹 高度晒し粉等	アルミや紙・パルプの製造、排水処理、繊維処理、石鹼 パイプ、窓サッシ、床材 胃腸薬、温浴剤 プール消毒
		付加価値素材	石油化学	ウレタン	ウレタン原料 (MDI)	住宅建材、化学繊維、自動車シート
				セメント	セメント	建設資材
				ポリマー(機能性ポリマー)	合成ゴム(CR) 合成ゴム(CSM) PPS等	自動車部品、医療用手袋、接着剤 自動車部品、ゴムボート、エスカレーター手すり スマホ筐体、自動車部品
	クロルアルカリ		機能性ウレタン	ウレタン原料 (HDI) PCD(ポリカーボネートジオール) 各種エラストマー製品	塗料・接着剤の硬化剤 合成・人工皮革(自動車シート等) 給紙ロール、時計バンド	
	機能商品	有機化成品	エチレンアミン 臭素・臭素誘導体 重金属処理剤	農薬原料、エポキシ樹脂硬化剤(船底塗料、電子部品の基板) 難燃剤(電子部品の基板) 飛灰、排水処理		

中長期経営戦略

成長と脱炭素の両立で社会に貢献

■ 「地球とヒトの快適な暮らしのパートナー」として存在意義を発揮し、社会課題の解決により持続可能な成長を目指す

新中期経営計画 (2025~2027)

テーマ

チェーン事業

採算性を重視した事業運営体制への変革

先端事業

前中計の投資成果の刈り取りと
2030年を見据えた能力増強

目標

売上高	11,830億円
営業利益	1,400億円
ROE	10%以上

前中期経営計画 (2022~2024)

実績

売上高	10,634億円
営業利益	989億円
ROE	7.2%

Vision2030

テーマ

「成長」と「脱炭素」の両立

チェーン事業

塩素関連製品の能力増強による収益の拡大

先端事業

大型の新規事業創出による収益基盤の拡大

目標

営業利益

1,700億円

GHG_※排出量

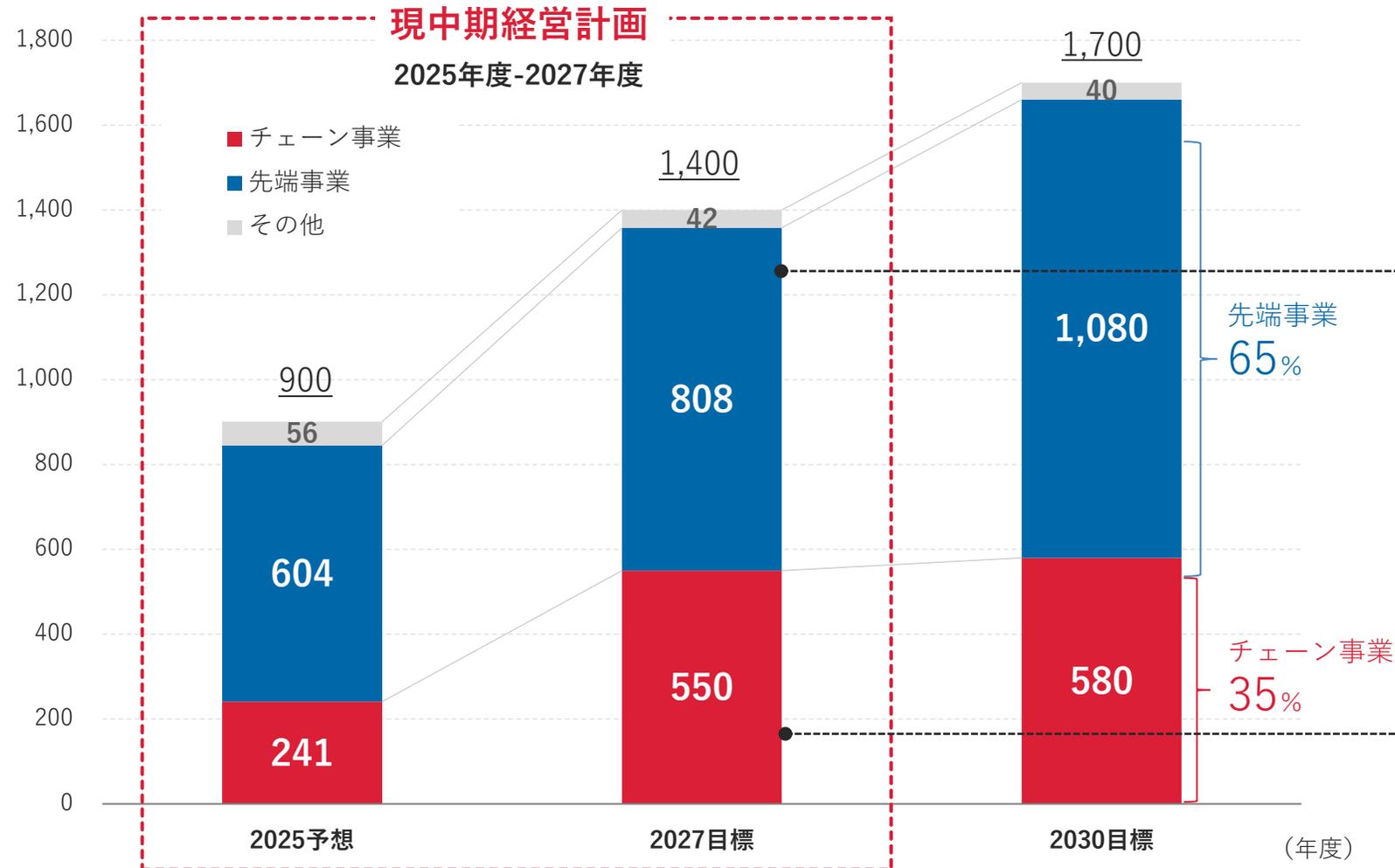
30%削減 (2018年度比)

※ CO₂等の温室効果ガス

2025-2027年度中期経営計画

■ 現中期経営計画ではVision2030達成に向けた取り組みを推進

営業利益推移 (単位：億円)



先端事業
半導体関連製品を中心に利益伸長

チェーン事業
製品需給改善・原料価格の下落による収益改善

合成ゴム（CR）



用途例（伝動ベルト）

能力増強を決定し、
需要伸長とさらなる用途展開に対応

- 主な用途：自動車・工業用ゴム部品
- 需要伸長中の一方、高度な製造技術と原料塩素の調達が参入障壁
- ハイエンド向けメーカーは**当社含む4社のみ**

重点施策

能力増強を決定

2030年に商業運転を開始

生産能力

+60%

エチレンアミン



用途例（船底塗料硬化剤）

高付加価値な「ハイアミン」へ
シフトし収益力を強化

- エチレンアミンの一種「ハイアミン」は**当社含む3社のみ製造可能**
- ハイアミンは高利益率 & 船底塗料硬化剤向けに需要伸長中

重点施策

**独自技術による
ハイアミン増産設備の新設検討中**

分離精製剤



分離精製剤

バイオ医薬品の
市場成長に応じて売上拡大

- 主な用途：バイオ医薬品の精製
= 研究開発・製造時に不可欠
- 当社の一部製品は、
市場でのデファクトスタンダード（事実上の標準基準）
- 欧米医薬品メーカー向けに販売拡大中

重点施策

2拠点で能力増強を決定

2026年、2027年に順次稼働開始

生産能力

倍増

※2案件の合計

石英ガラス



石英ガラス製品（ボート）

半導体製造に不可欠な素材

- 主な用途：半導体製造装置向け部材
- 半導体市場の成長、半導体の微細化・多層構造化に伴い、
需要は今後も増大
- 当社はメーカー認定材を多くラインナップ
= 安定した利益が期待

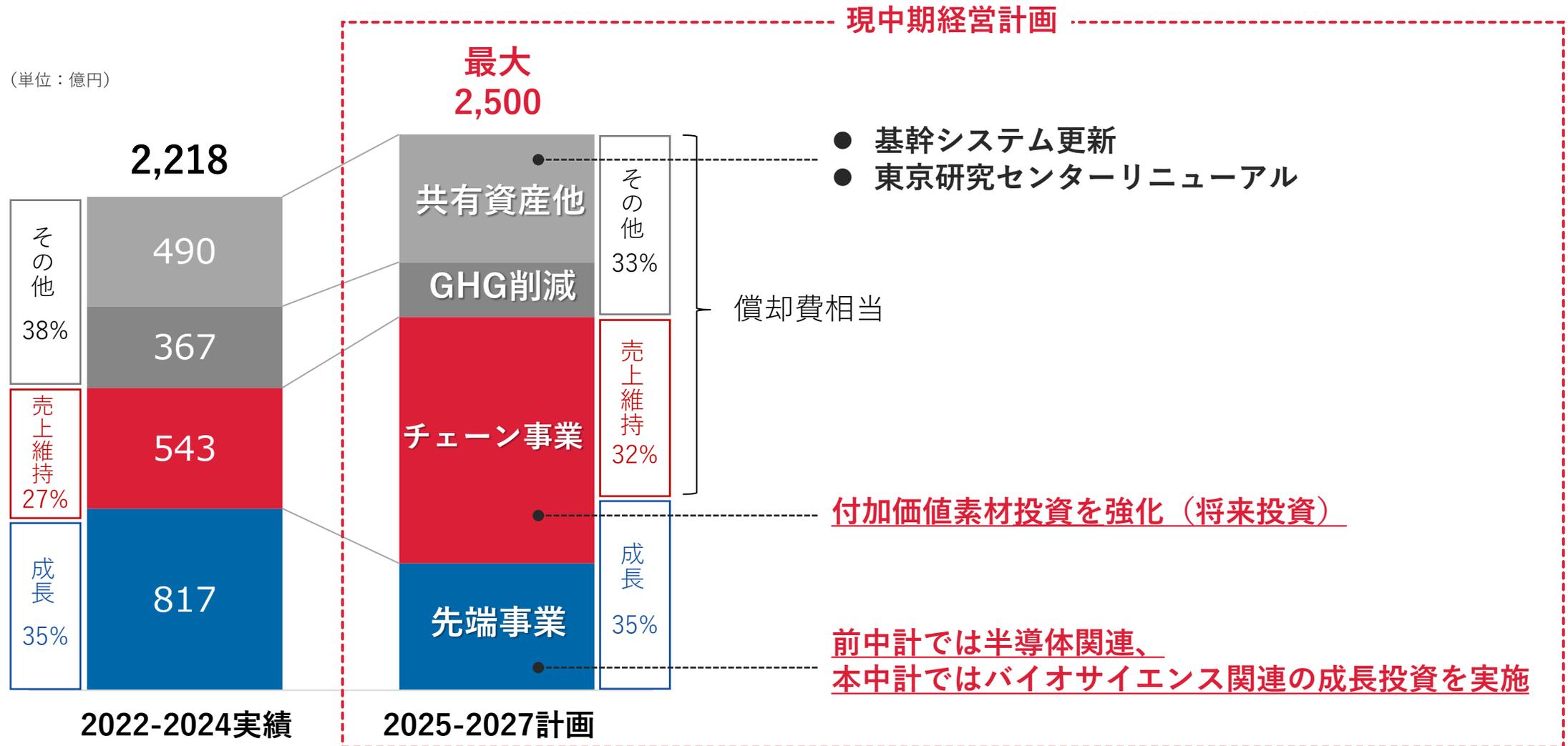
重点施策

2019～2024年度能力増強を実施

増強済の能力を活用して販売拡大
2026年度以降大きな利益貢献を期待

中期経営計画：設備投資

■ 前中計では先端事業を中心に成長投資を実施済、本中計ではチェーン事業の将来投資を強化



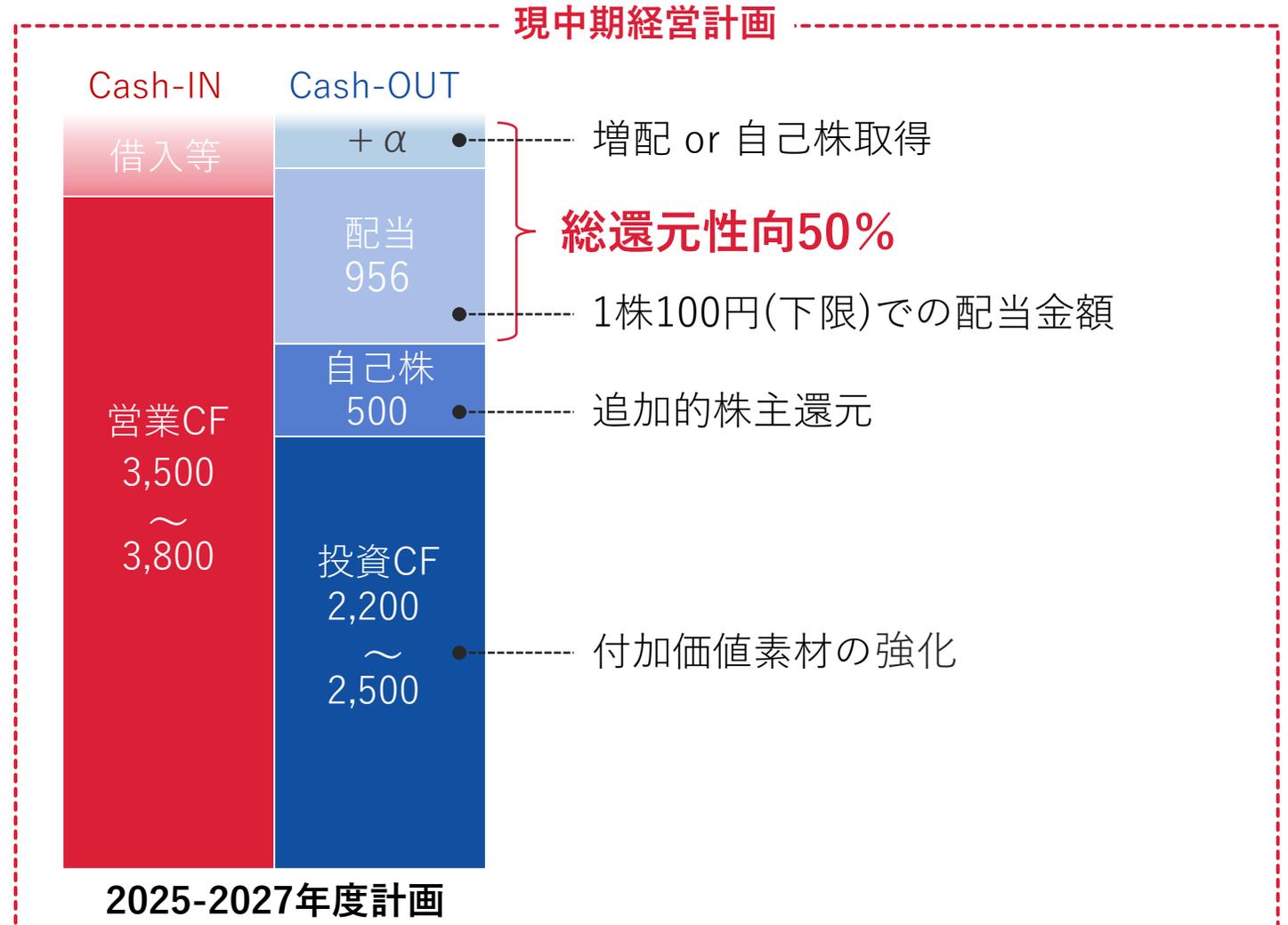
中期経営計画：キャピタル・アロケーション

■ 獲得したキャッシュは、チェーン事業の収益基盤強化に重点的に配分するとともに、株主還元に充当

(単位：億円)



2022-2024年度実績



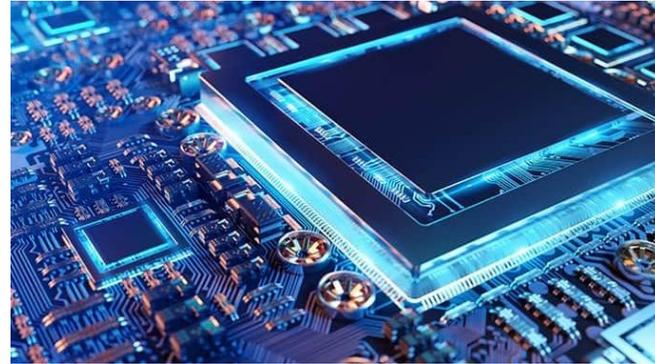
2025-2027年度計画

研究開発戦略：先端事業発展に向けた重点3分野に注力



ライフサイエンス分野

- バイオプロセス下流工程製品
(カラム・分離精製剤等)
- バイオプロセス上流工程製品
(培養器材等)
- 新規診断・検査製品



電子材料分野

- 有機電子材料
- 高速大容量通信材料
- 半導体関連材料



環境・エネルギー分野

- CO₂分離回収・有効活用技術
- 廃プラスチックリサイクル技術
- 次世代電池材料

外部技術の導入

大学・企業との共同研究

NEDO※プロジェクト



研究基盤の強化

デジタル化 (MI活用等)

インフラの刷新

重点3分野の開発促進に向け、設備投資と人材確保を実施

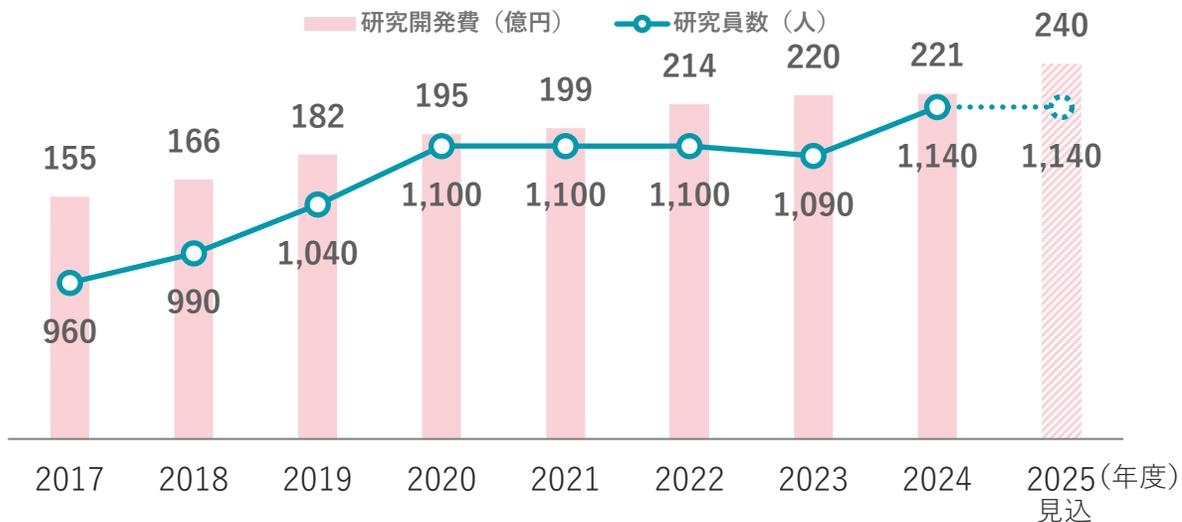
- 昨年東京研究センターが竣工し、全ての研究拠点を最新鋭化
- 前中計期間中に研究員を増員

研究人員* **約1,140人**

研究開発費* **約240億円**

*2025年度予想

研究開発費と研究員数の推移



東京研究センター (2025年11月リニューアル竣工)

- ライフサイエンス研究所
- 先端材料研究所
- MIセンター



南陽事業所 (2020年完成)

- 無機材料研究所
- 有機材料研究所
- 技術センター



四日市事業所 (2019年完成)

- 高分子材料研究所
- ウレタン研究所



重点研究テーマ：CO₂回収アミン

CO₂を資源として活用し、脱炭素に貢献

概要

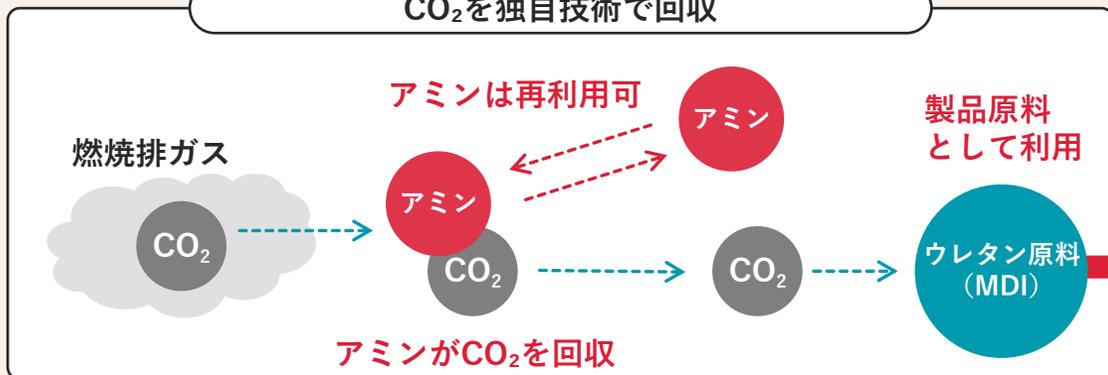
課題

CO₂排出削減

CO₂を回収するアミン溶液を開発

- 回収だけでなく、CO₂を自社製品の原料へ有効活用
- 使用後のアミン溶液は再利用可能

CO₂を独自技術で回収



進捗・今後の取り組み

自社プラントにてCO₂回収・原料化を開始済み
(2024年10月～)

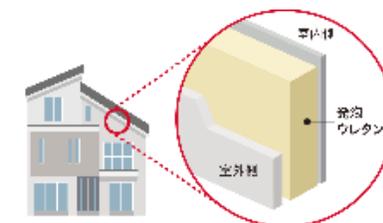
当社アミン溶液は耐久性の高さが特長

外販も検討中

CO₂を用いた製品の用途例



建材用木質ボード接着剤



住宅用断熱材

重点研究テーマ：窒化ガリウム（GaN）ターゲット材

■ パワー半導体市場拡大の起爆剤

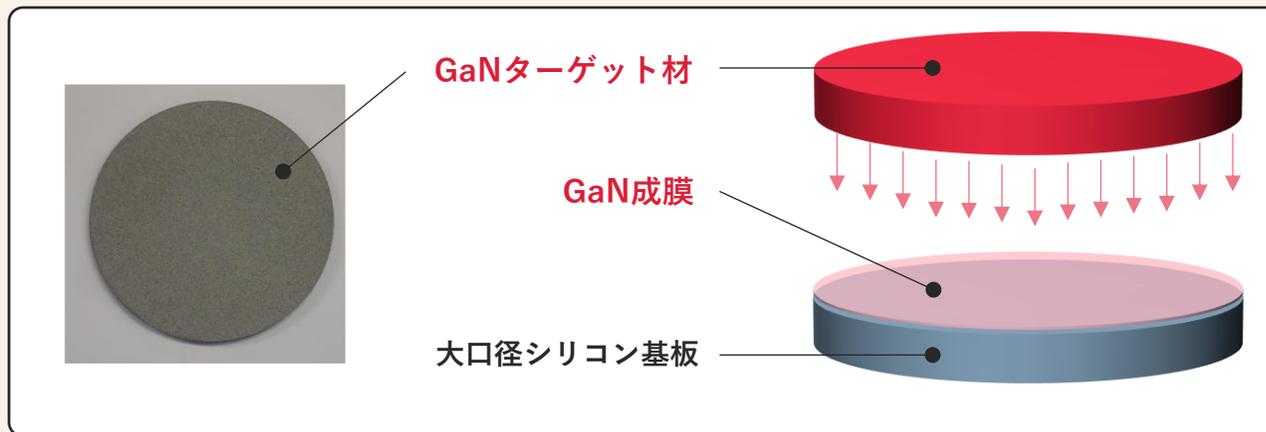
概要

課題

パワー半導体市場は拡大予測も、材料コスト高が懸念

高品質・低コストを両立するGaN材を開発

- GaNは省エネ効果が高く、他材料からの置き換え需要増加中
- 当社は従来のGaN材と比べ、大幅にコストを低減



進捗・今後の取り組み

装置メーカー複数社での採用が決定

研究開発を推進し、採用増加を目指す

コスト低減効果により
パワー半導体市場のさらなる拡大へ

「脱炭素」へ向けた取り組み

■ 決定済みの施策を推進するとともに、経済合理性を重視して対策オプションを選択・実行



当社株式の魅力

資本効率の改善に向けて、株主還元を強化

株主還元方針

■ 資本効率の改善に向けて、2025-2027年度新中期経営計画にて株主還元方針を変更

前中計期間

2022-2024年度

- 安定配当を基本とし、自己株取得による資本効率向上にも努める
- 配当性向は30%を目安とする
- 自己株取得はフリーCFの水準等を勘案して機動的に実施する

本中計期間

2025-2027年度

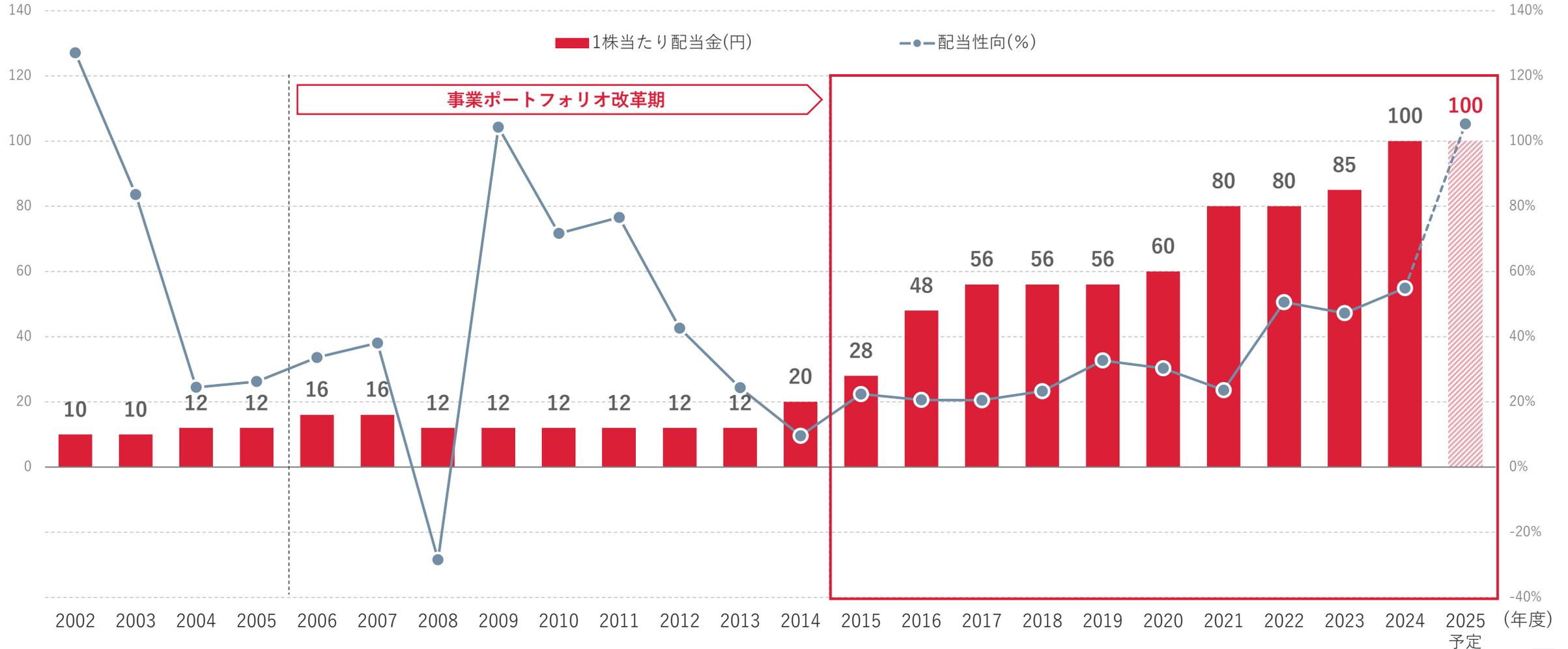
- 総還元性向 **50%**
年間1株あたり100円を下限として
配当を実施
- 配当性向が50%未満の場合、自己株取得または増配により総還元性向を50%以上とする
- 追加的株主還元として、2025-2027年度の3ヶ年で500億円の自己株を取得する

※2025年8月に250億円の自己株取得を公表し、実施中

株主還元実績

■ 事業ポートフォリオ改革後は増配を実現、以降実質累進配当を継続中

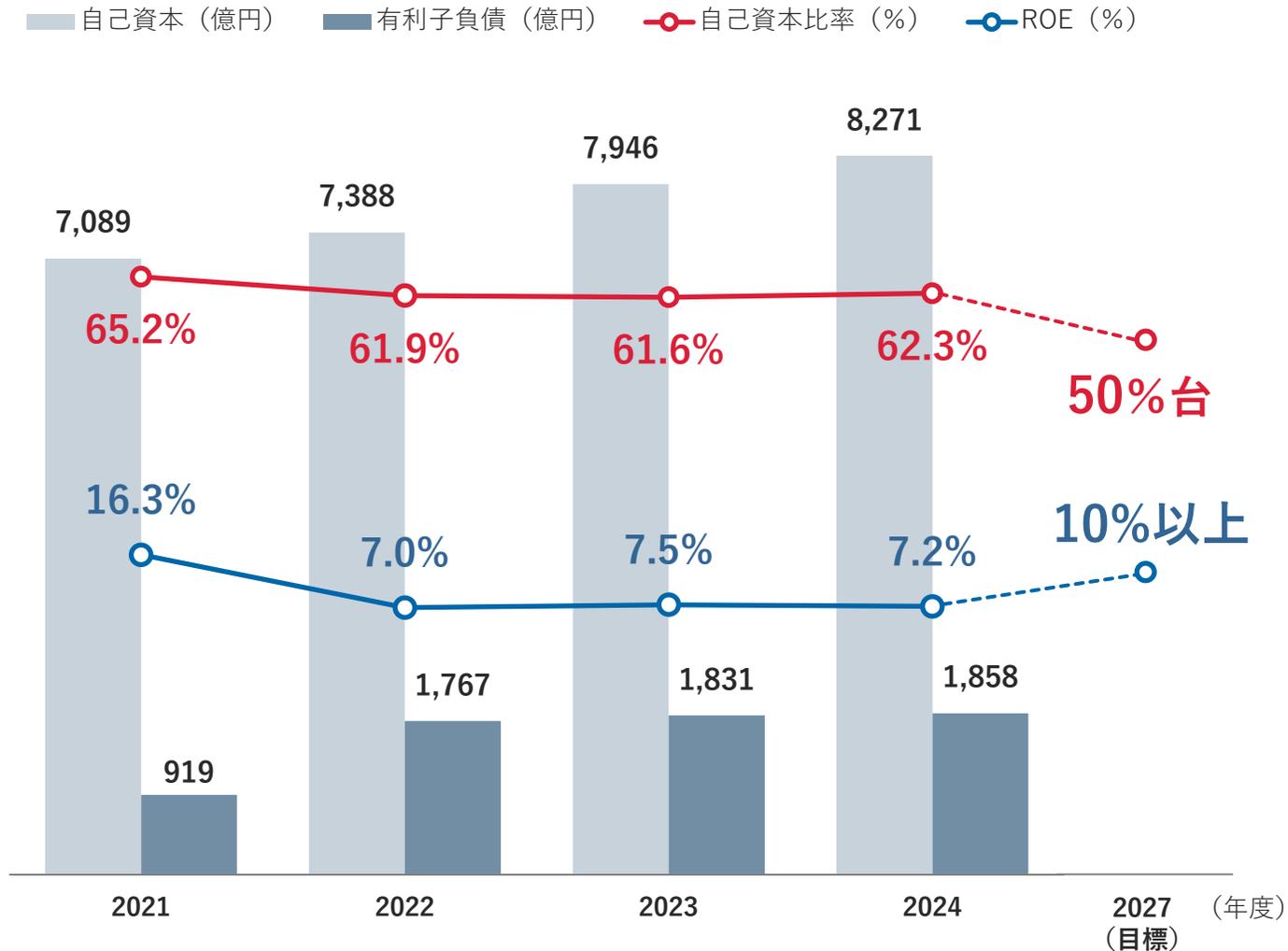
配当利回り
(2026年1月末日終値) **4.0%**



※2017年度、普通株式2株を1株に株式併合。2016年度以前の配当は併合後の基準に調整済みの金額を記載。

株主還元の取り組み

■ 株式市場との対話を踏まえ、資本効率の改善を意識した還元強化を実行開始



2024年度

- 85円→100円/株に増配

2025-2027年度

- 100円/株を下限として配当を実施
- 500億円の自己株取得を実施予定



資本効率の改善を意識し、
ROE10% (2027年度目標)
 達成に向けた施策を推進

安定かつ成長性のある収益基盤

キーワードは「チェーン」

- 当社独自のプロダクト「チェーン」から社会に不可欠な基礎化学品、多数の高付加価値品を産出



ユニークな事業ポートフォリオを構築



安定かつ成長性のある収益基盤

(高配当の源泉)

高配当

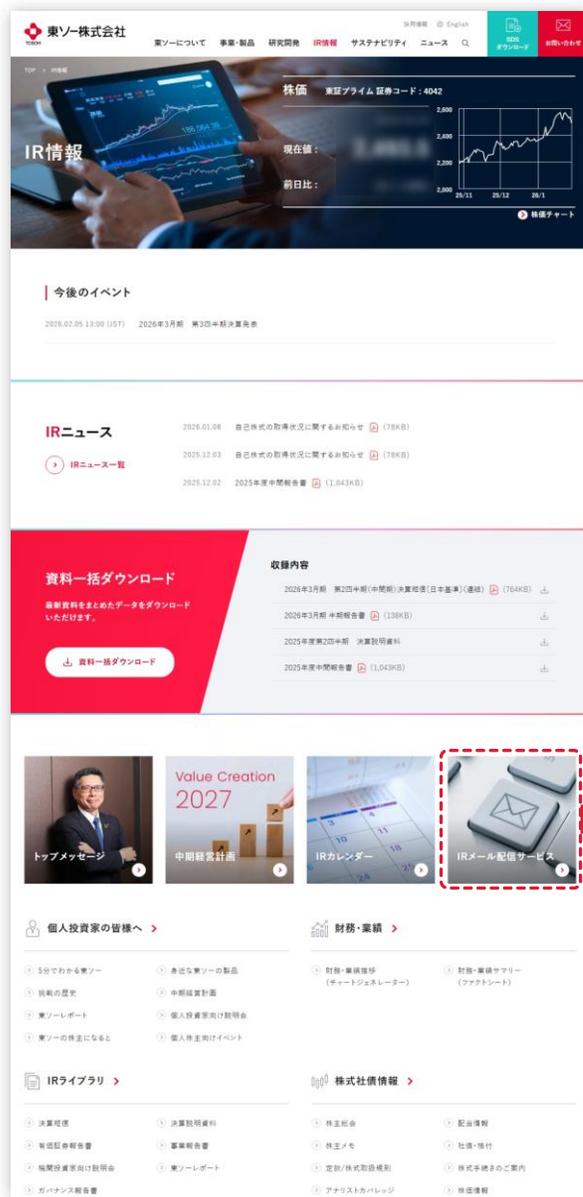
年間 **100**円/株

配当利回り **4.0%**

(プライム市場平均2.3%)

長期保有に適した投資先

IR情報をWEBサイトやメールで積極的に発信中



東ソー株式会社

IR情報

株価 東証プライム 証券コード：4042

現在値：186.04円

前日比：▲0.12%

今後のイベント

2026.02.05 13:00 (JST) 2026年3月期 第3四半期決算発表

IRニュース

2026.01.08 自己株式の取得状況に関するお知らせ (78KB)

2025.12.03 自己株式の取得状況に関するお知らせ (78KB)

2025.12.02 2025年度中間報告書 (1,043KB)

資料一括ダウンロード

収録内容

2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本語)(速報) (764KB)

2026年3月期 中期報告書 (118KB)

2025年度第2四半期 決算説明資料

2025年度中間報告書 (1,043KB)

トップメッセージ

Value Creation 2027

中期経営計画

IRカレンダー

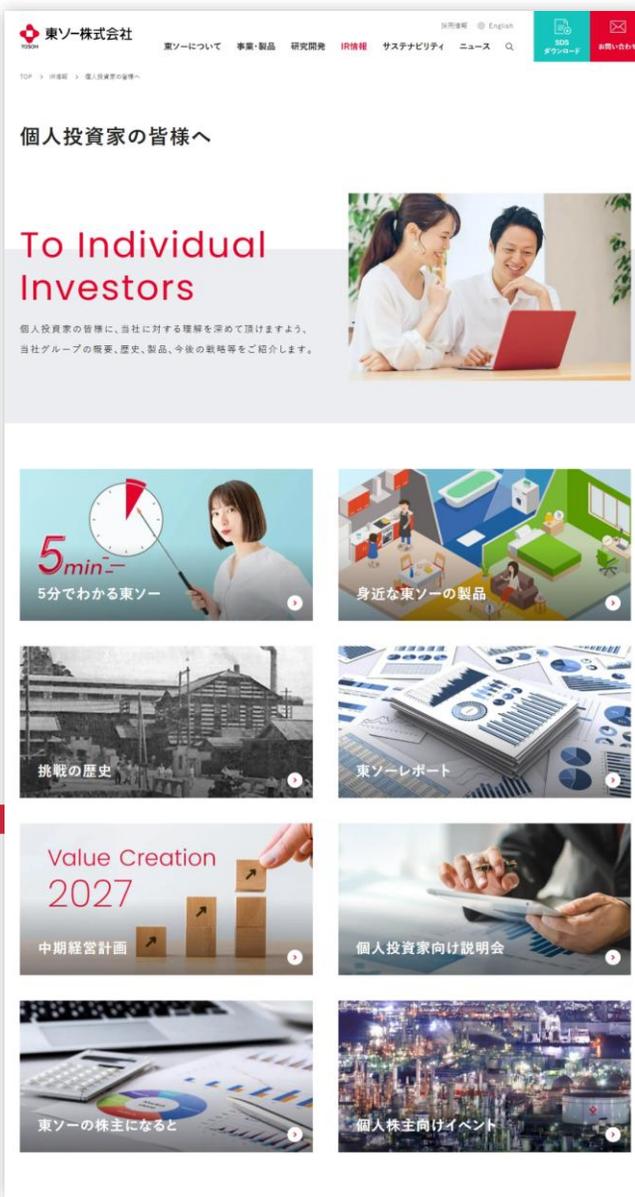
IRメール配信サービス

個人投資家の皆様へ

財務・業績

IRライブラリ

株式社債情報



東ソー株式会社

個人投資家の皆様へ

To Individual Investors

個人投資家の皆様に、当社に対する理解を深めて頂きますよう、当社グループの概要、歴史、製品、今後の戦略等をご紹介します。

5min- 5分でわかる東ソー

身近な東ソーの製品

挑戦の歴史

東ソーレポート

Value Creation 2027

中期経営計画

個人投資家向け説明会

東ソーの株主になると

個人株主向けイベント

当社 **WEBサイト** にて
IR情報を掲載しております。
また、適時開示情報等をお知らせする
IRメール配信サービスもございます。
ぜひご活用ください。



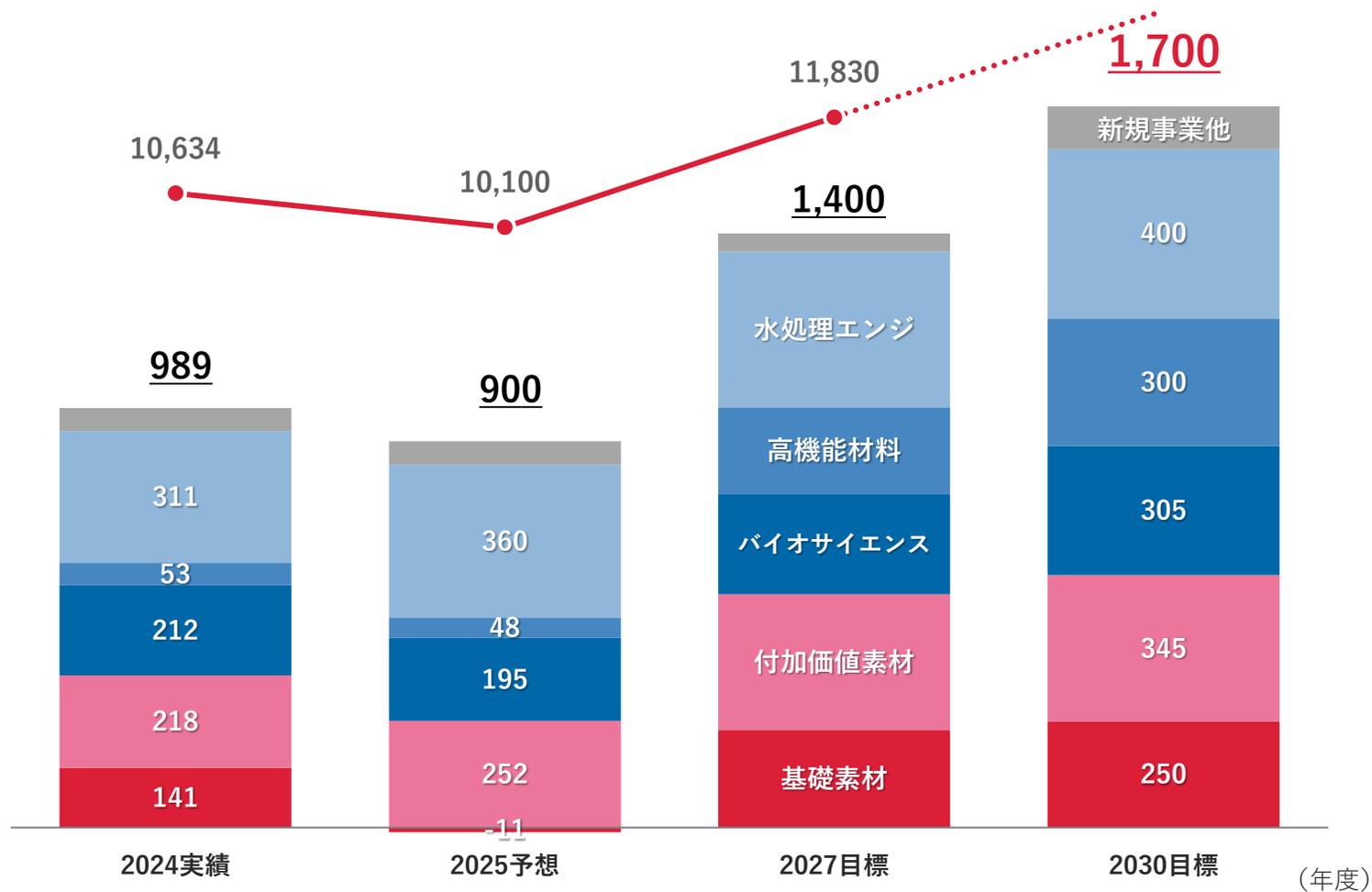
IRメール配信サービス
ご登録ページ

<https://www.tosoh.co.jp/ir/mail/>

< 補足資料集 >

営業利益推移：事業区分別

■ 基礎素材
 ■ 付加価値素材
 ■ バイオサイエンス
 ■ 高機能材料
 ■ 水処理エンジ
 ■ その他
 ● 売上高

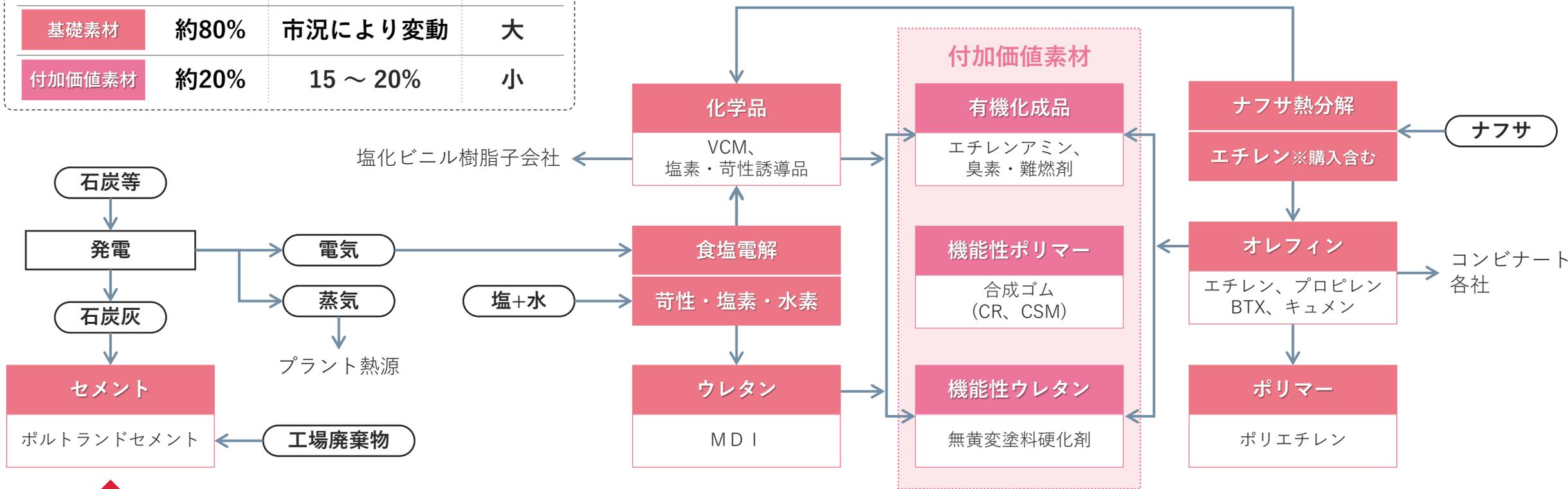


		2025年度	2027年度
為替前提	ドル	145.5円/USD	140.0円/USD
	ナフサ	64,375円/KL	61,000円/KL
営業利益への影響		対米ドル1円安で+7億円	

チェーン事業のプロダクトチェーン

■ 多種多様な製品を生産できる高効率なプロダクトチェーン、塩素とセメントの自社保有がチェーンの競争力を強化

	売上構成	営業利益率	市況変動
基礎素材	約80%	市況により変動	大
付加価値素材	約20%	15 ~ 20%	小



- 工場廃棄物のセメント原料化によるコスト削減
- 30億円以上/年

- 原料塩素の調達が入参障壁 ※取扱いの難しい塩素は安定調達不可
- 塩素・苛性・エチレンの高付加価値化によりチェーン全体の収益性を向上

主な環境貢献製品①

パイプ、継手用塩化ビニル樹脂



耐久性・リサイクル性に優れ、インフラ、家庭用水道管、農業用パイプ等に使用
 他プラスチックより石油資源を節約、製造時のGHG排出削減に貢献



窓サッシ用塩化ビニル樹脂



複層ガラスと組み合わせた樹脂サッシ
 断熱性・気密性に優れ、冷暖房効率を改善し、GHG排出量削減に貢献



建材用断熱材用ウレタン原料

(MDI)



建材用断熱材ウレタン発泡材の主原料
 建築物の断熱性向上により、冷暖房効率を改善し、GHG排出量削減に貢献



主な環境貢献製品②

飛灰・排水用重金属処理剤



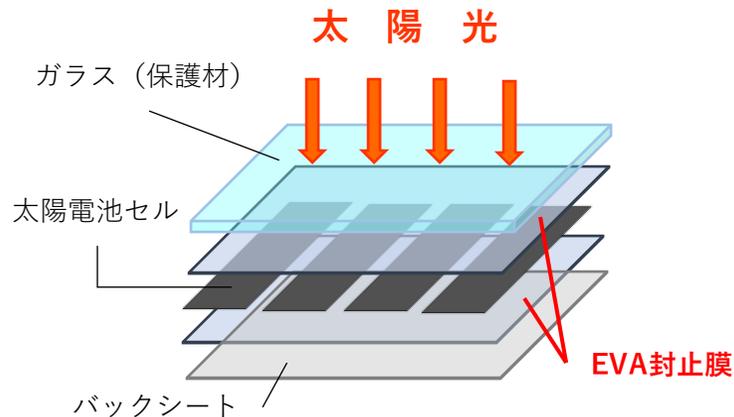
焼却炉から出る飛灰、工業排水中の重金属処理

環境流出を防止し、公害病のない社会の形成に貢献



太陽電池封止材用EVA

(エチレン酢酸ビニル共重合体)



透明性・耐候性・柔軟性・接着性に優れ、太陽電池セルの封止材・保護材として機能

再生可能エネルギーの使用を促進し、GHG排出量削減に貢献



自動車排ガス用浄化触媒

ハイシリカゼオライトHSZ®



高い耐熱性・耐酸性を有し、触媒や疎水性吸着材として使用

自動車排ガス中の有害物質である窒素酸化物・未燃炭化水素の除去・浄化に貢献



医療向け診断装置および試薬



がん・甲状腺・婦人科・心疾患などの非感染症やCOVID-19・B型肝炎などの感染症の検査

■ 早期の診断・診療を実現し、世界中の人々の健康の維持、疾病リスク軽減に貢献



分離精製剤 TOYOPEARL®



バイオ医薬品（抗体医薬品やワクチン）の原薬などの精製工程で使用

精製工程は医薬品の不純物除去の役割を持つ

高性能化・安定生産により、医薬品の品質向上・安定供給に貢献



ご清聴ありがとうございました。

“明日のしあわせを化学する”

世の中のしあわせの輪を広げていくために、
私たち東ソーは、化学の領域を日々革新していくことで、
よりよい明日に向けて、社会に貢献していきます。



TOSOH

東ソー株式会社

東証プライム

4042